

国立天文台・天文情報センター・特別客員研究員 中桐正夫

### \*堂平観測所 50 cmシュミットの乾板 5枚を発見

国立天文台天文情報センターでは、旧図書館に収蔵されていた写真乾板などの整理を行っている。この写真乾板の中からは100年以上前の乾板など貴重なものが発見されている。収蔵されている写真乾板のうち、堂平観測所関係のものは大島紀夫氏が、ブラッシャー天体写真儀による天体写真乾板、明らかに由来の分かった天体写真乾板については佐々木五郎氏が整理している。筆者は由来が知れない乾板、フィルムなど雑多な写真乾板、フィルム、写真などの整理を引き受けている。今回は筆者に渡された12 cm角の乾板5枚についての報告である。この乾板はSBと書かれたものがあることから堂平観測所50 cmシュミット望遠鏡で撮影されたものようである。ならば、大島氏に渡せばいいのだが、とりあえず筆者がスキャナーで取り込んでみた。それらの乾板と包み紙の様子を載せておく。まず1枚目が写真1であり、写真2がその包み紙で観測データが書かれており、露出が5h12m00s~5h17m00sの5分で、天体は彗星 Matsuoka (?),  $\alpha : 17^{\text{h}}20^{\text{m}}$ ,  $\delta : -23^{\circ} 30'$ だが $\alpha : 16^{\text{h}}40^{\text{m}}$ ,  $\delta : -23^{\circ} 00'$ で撮影されている。この乾板には撮影日時がなく、彗星?と書かれているが、筆者には彗星状天体の確認はできない。この乾板の中心を拡大したものが写真3である。こういった星野から彗星状天体を見つけるのは至難の業で筆者の手には負えない。彗星探査の観測者の神業に感心している。

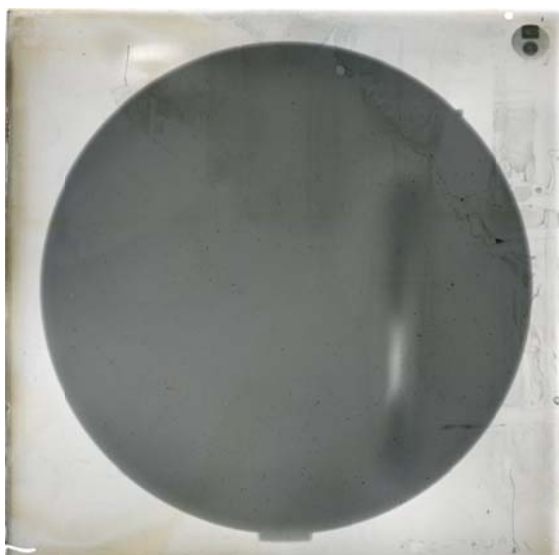


写真1

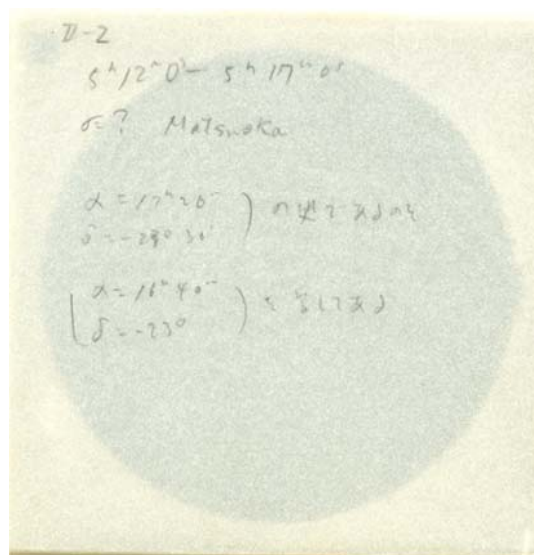


写真2

写真3には明らかに星像がある。もっと広い範囲を精査すれば彗星状天体が見つかるかもしれないが、今回は中心部分の拡大写真を載せることにご勘弁いただきたい。

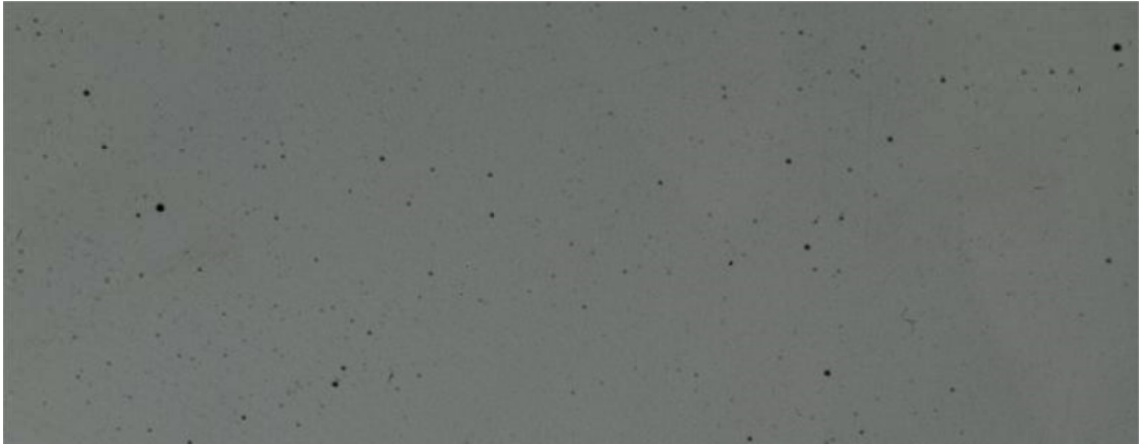


写真3

次の乾板が写真4、包み紙が写真5である。この乾板には、1390の番号が書かれ、包み紙には、ポラロイドTest、撮影日が1971年5月11日とある。



写真3

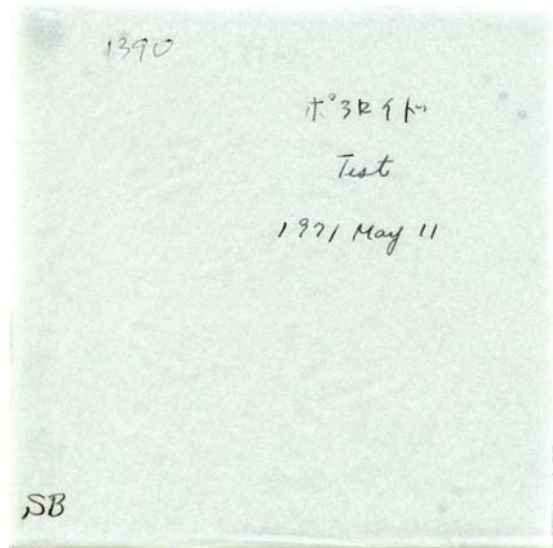


写真4

写真3の中心部分の拡大が写真5である。



写真5

写真6もポラロイドテストと書かれたもので、写真7が包み紙に書かれた情報である。

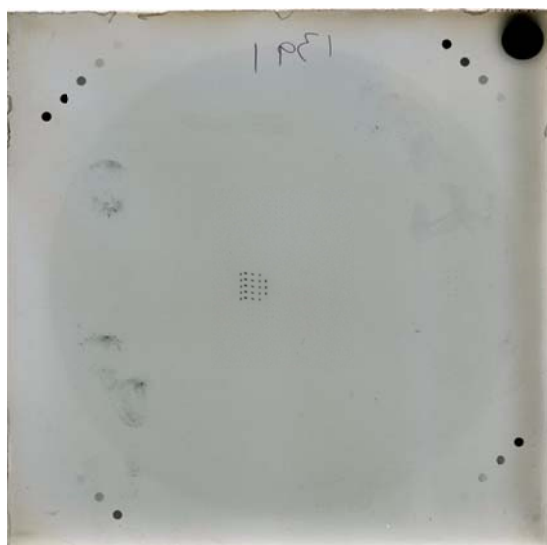


写真6

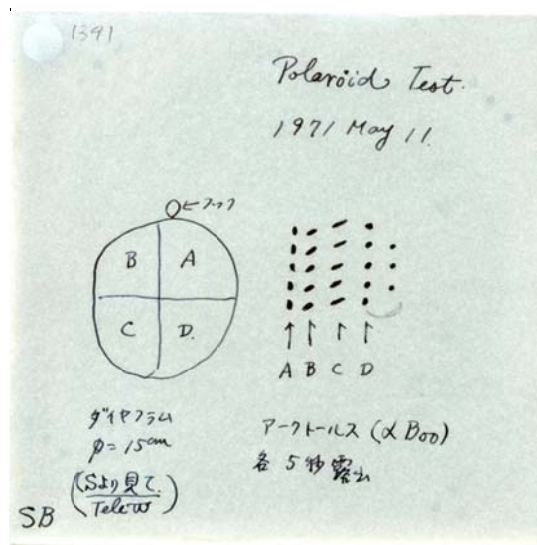


写真7

写真6の中心部を拡大ものが写真8である。

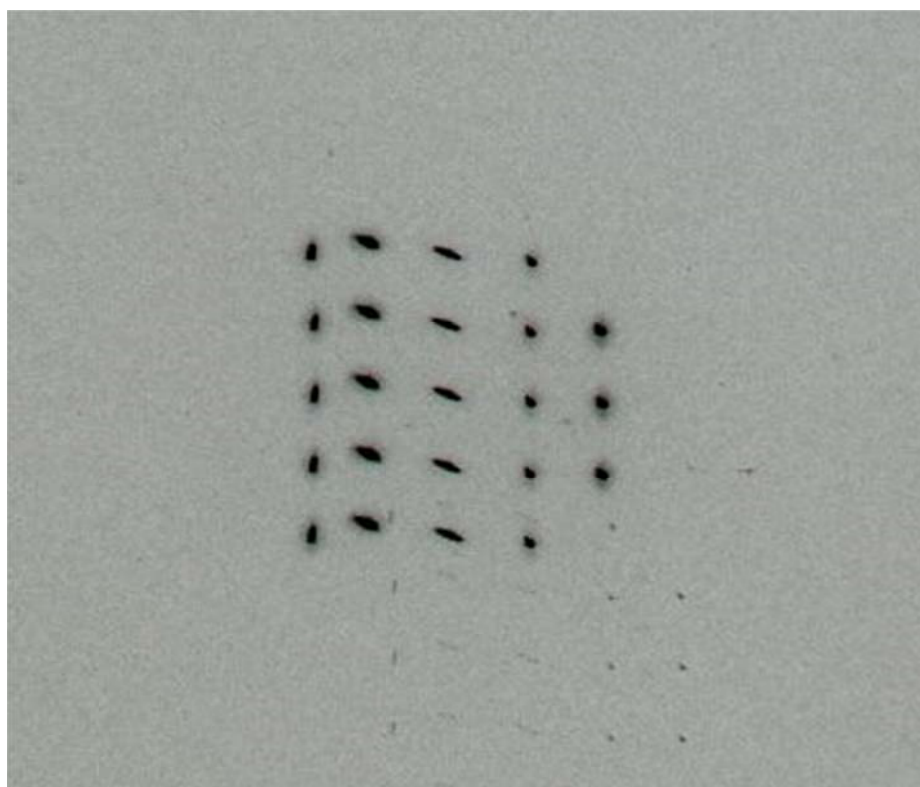


写真8

包み紙の書かれているように、Objectはアークトールス ( $\alpha$  Boo) であろうが、この包み紙だけの情報からではどういったテストをしていたのか解読不明である。

4枚目の乾板が写真9、包み紙が写真10である。この乾板はひどく汚れている。



写真 9

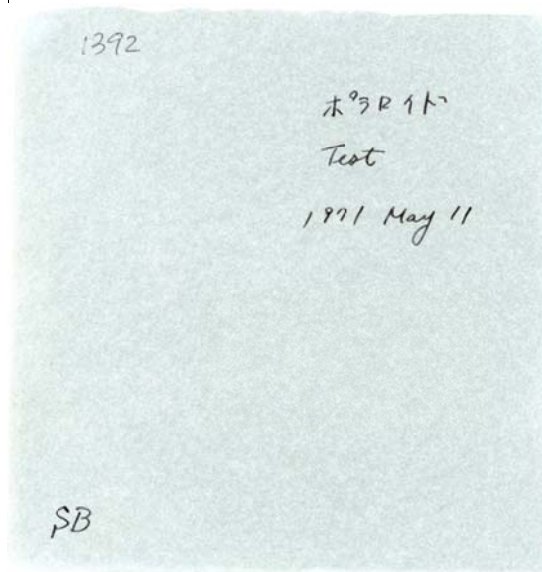


写真 10

写真 10 の中心部分の拡大が写真 11 である。

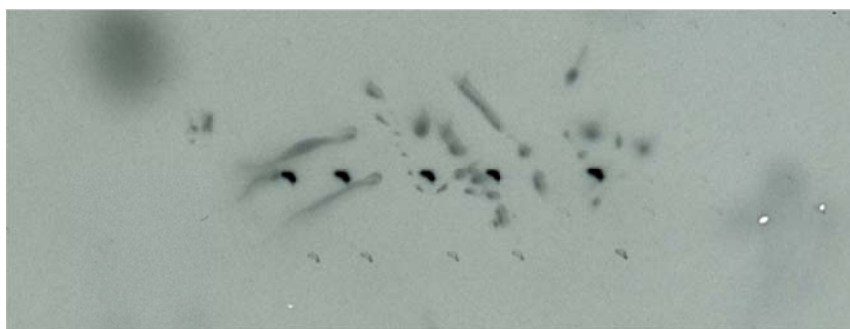


写真 11



写真 12

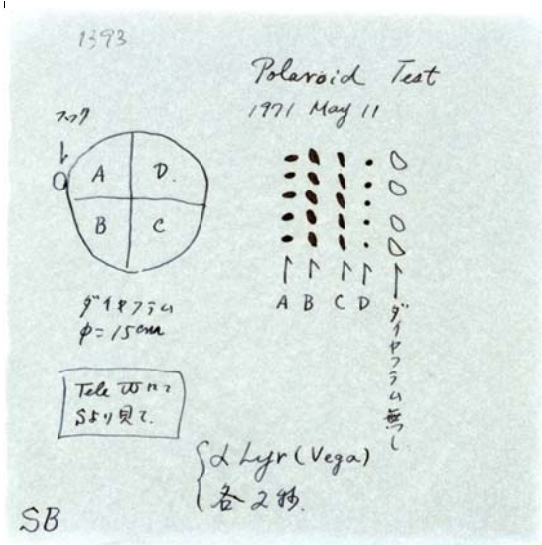


写真 13



5枚目の乾板の写真が写真12、包み紙が写真13である。撮影された天体はベガ、 $\alpha$  Lyrである。

写真12の中心部の拡大が写真14である。包み紙に書かれたように写っている。

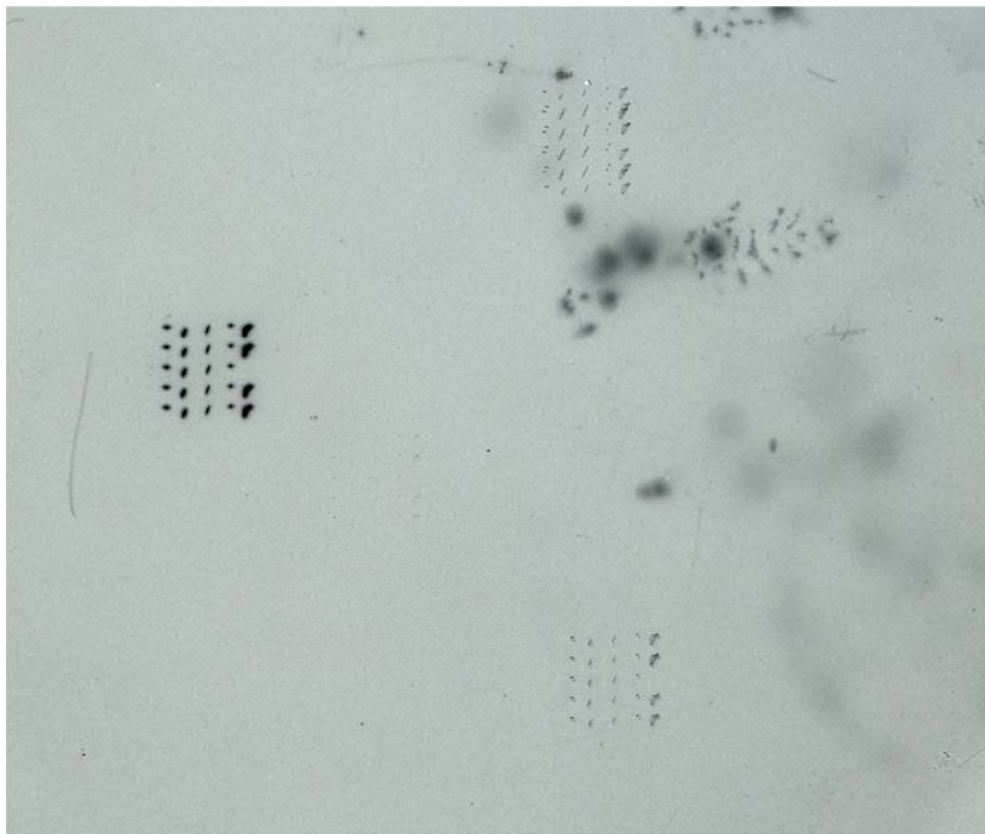


写真14

これらは、包み紙に書かれているように何かのテスト乾板であるが、これだけ出てきてもよくわからない。とにかく発見された天体写真乾板である。

星像を比較してみるのも面白かもしれない。写真15が $\alpha$  Boo、写真16が $\alpha$  Lyrである。

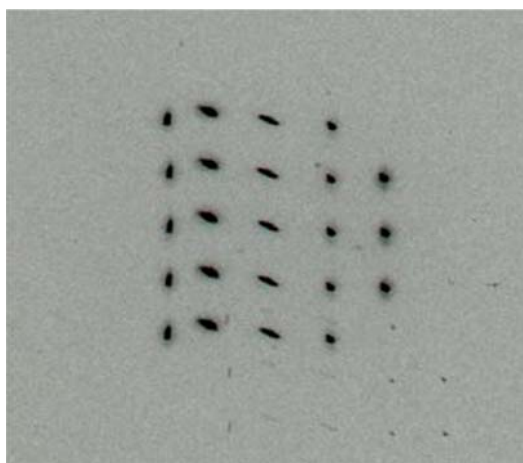


写真15

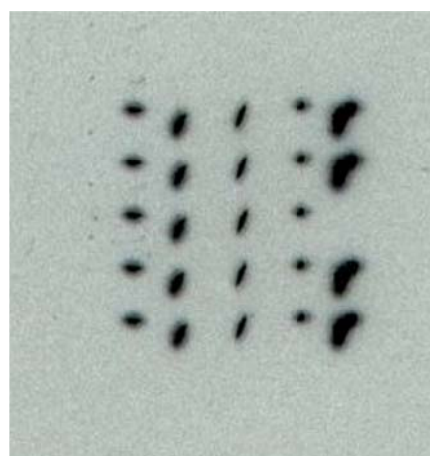


写真16

これらアーカイブ室新聞の記事にお気づきのことがあれば、編集者中桐にご連絡いただければ幸いです。中桐のメールアドレスは、[arcnaoj@pub.mtk.nao.ac.jp](mailto:arcnaoj@pub.mtk.nao.ac.jp)